

レジメン名称 イミフィンジ(d1)+GC(d1,d8) q3w

胆道癌

ID 患者氏名 様 (性別)

身長 cm 体重 kg 年齢 歳 体表面積 m²

薬剤	投与量	投与日		1 コース 3 週間 (最大 8 コース)
		Day 1.....8.....15.....22		
イミフィンジ	1500mg/body	↓		
シスプラチン	25 mg/m ²	↓	↓	
ゲムシタビン	1000 mg/m ²	↓	↓	

レジメンオーダー以外に必要な処方

必要時 (制吐剤予防投与): 点滴翌日～: デキサメタゾン (デカドロン) 4～8mg 1×朝 2 日間 内服

注意事項

臨床試験 (TOPAZ-1) では最大 8 コース、その後はイミフィンジ (デュルバルマブ) 1500mg/body 4 週間間隔の維持療法へ
 体重 30kg 以下の場合、イミフィンジの 1 回投与量は 20mg/kg (体重) とする

イミフィンジはインラインフィルターを通して投与すること

イミフィンジ: インフュージョンリアクションに注意 (悪寒、発疹、潮紅、息切れ、浮腫性めまい、発熱等)

初回および 8 週以上あいた時: 心電図モニター、BP、HR などの確認の必要あり (詳細は投与方法の項を参照)

グラニセトロンは生食 500mL 開始 30 分後に開始です

特に注意する副作用

間質性肺疾患、大腸炎・重度の下痢・消化管穿孔、内分泌障害 (甲状腺機能障害、副腎機能障害、下垂体機能障害)、1 型糖尿病、
 肝機能障害・肝炎・硬化性胆管炎、腎障害 (間質性腎炎等)、筋炎・横紋筋融解症、心筋炎、重症筋無力症、髄膜炎、免疫性血小
 板減少性紫斑病、脳炎、膵炎、重度の皮膚障害、神経障害 (ギラン・バレー症候群を含む)、インフュージョンリアクション、発
 熱性好中球減少症 (参考: 最適使用推進ガイドライン)

投与方法：1日目	
1	生食 100mL ケモセーフロックの フィルター付き 点滴セットを使用 メインルートにつなぎ、プライミング 点滴筒（チェンバー）を 3/4 程度満たす
2	イミフィンジ 1500 mg 、生食 70 mL、全量 100 mL 60 分かけて点滴、メインルートから投与 初回および 8 週以上あいた時、下記を実施 心電図モニター 投与前、5 分後、15 分後、終了時後：BP、HR 測定 投与前、5 分後、15 分後、終了時後：全身状態の確認（悪寒、発疹、潮紅、息切れ、浮腫性めまい、発熱等）
3	生食 50 mL メインルートから、ゆっくり、ウォッシュアウト 15 分間、残破棄可
4	フィジオ 140 500mL、硫酸 Mg 補正液 7 mL 60 分かけて点滴、メインルートから投与
5	生食 500mL 60 分かけて点滴、メインルートから投与 次のグラニセトロンはこの生食開始 30 分後に開始
6	グラニセトロン(3mg/100mL) 1V、デキサート(3.3mg/1.0mL) 3A 30 分かけて点滴、下の側管から 5 の生食開始 30 分後に開始 （生食とグラニセトロンは同時投与）
7	※メインルートを止めてから マンニトール S 300mL 1V 30 分かけて点滴、下の側管から投与
8	シスプラチン mg、生食、全量 500 mL 60 分かけて、ケモセーフロックのルートより投与
9	生食 100mL、メインルートから投与 ウォッシュアウト、ゆっくり、15 分ほど、その後止める。 最後まで使用するので使い切らないこと
10	※メインルートを止めてから ヴィーン F 500mL 60 分かけて点滴、下の側管から投与
11	ゲムシタビン mg、生食 100 mL 30 分かけて、ケモセーフロックのルートより投与
12	9 の生食を使用し、ウォッシュアウト ゆっくり、適宜途中終了可、残は破棄

投与方法：8日目		
1	生食 100mL ケモセーフロックの点滴セットを使用 メインルートにつなぎ、プライミング 点滴筒（チェンバー）を 3/4 程度満たす	
2	フィジオ 140 500mL、硫酸 Mg 補正液 7 mL 60 分かけて点滴、メインルートから投与	
3	生食 500mL 60 分かけて点滴、メインルートから投与 次のグラニセトロンはこの生食開始 30 分後に開始	
4		グラニセトロン(3mg/100mL) 1V、デキサート(3.3mg/1.0mL) 3A 30 分かけて点滴、 下の側管から 3 の生食開始 30 分後に開始（生食とグラニセトロンは同時投与）
5	※メインルートを止めてから マンニトール S 300mL 1V 30 分かけて点滴、 下の側管から投与	
6	<u>シスプラチン</u> mg、生食、全量 500 mL 60 分かけて、ケモセーフロックのルートより投与	
7	生食 100mL、メインルートから投与 ウォッシュアウト、ゆっくり、15 分ほど、その後止める。 最後まで使用するので使い切らないこと	
8	※メインルートを止めてから ヴィーン F 500mL 60 分かけて点滴、下の側管から投与	
9	<u>ゲムシタビン</u> mg、生食 100 mL 30 分かけて、ケモセーフロックのルートより投与	
10	7 の生食を使用し、ウォッシュアウト ゆっくり、適宜途中終了可、残は破棄	